

ろくのへ 議会だより

第72号

平成24年4月20日発行
発行/青森県六戸町議会



4月1日から電車に替わって運行されたバス。通勤や通学など、沿線住民の新たな足として地域交通を担う。

3月31日で運行終了、89年の歴史に幕を閉じた十鉄電車。多くの人が詰めかけ、別れを惜しんだ。



平成24年度 第2回定例会 **町政運営方針と事業** … 2P

予算特別委員会 **～町の予算を審査～** … 4P

町政のここが聞きたい! 一般質問
4議員が問う … 8P

町民の声 - こんなまちづくりに期待します - … 12P

●編集/六戸町議会広報委員会

〒039-2392 青森県上北郡六戸町大字犬落瀬字前谷地60 TEL:0176-55-3111 (代表) FAX:0176-55-3112

ホームページ <http://www.town.rokunohe.aomori.jp> Eメール gikai@town.rokunohe.aomori.jp



有効に生かし、 町民のサービス向上にあたる」

・福祉・子育て支援の充実を重点に
81億9,456万2千円
 (前年度比1.3%増)

平成24年第2回定例会は3月2日招集され、9日まで8日間の会期で開かれました。
 提出された議案は、協議議案4件、条例議案4件、予算議案14件、人事案件2件、議員提出議案1件でいずれも全会一致で原案とおり可決しました。
 また、一般質問には、4名の議員が登壇し、理事者側の所信をただしました。

主な施策内容

■ 保健・医療分野

町民一人一人が健康寿命を延ばし、生涯にわたり生き生きと暮らせるよう、自主的な健康づくり活動の促進を基本に、保健サービスを提供し、地域医療体制の維持充実を図ります。
 その施策は、
 ・子ども医療費の無料化を継続
 ・小児用肺炎球菌や子宮頸がん等の予防接種の公費負担を継続
 ・ひとり親家庭等の子どもや重度心身障害者の方が医療費を窓口で負担しない制度を新設

▽国民健康保険事業では、

・特定健康診査(集団検診)負担金の無料化を継続
 ・受診者の増加を図るほか、国保会計の財政支援(赤字補てん)のため、繰出金を措置

▽介護保険事業では、

・給付費の増加により繰出金を増額
 ・高齢者ができる限り自立し、住み慣れた地域で暮らせるよう、介護予防事業に力を入れ、「遊湯クラブ」の拡大実施

▽国民健康保険病院事業では、

町立病院が地域医療の拠点として機能充実を図るため「マルチスライスト」を導入。

■ 環境分野

快適で潤いのある定住環境を守り育てるために、ごみの不法投棄監視業務を継続するほか、資源ごみのリサイクルに努めます。また、全町水洗化の推進のために下水道整備区域外の合併浄化槽設置に対する補助制度を拡充します。

■ 産業分野

基幹産業である農業の振興に向けた各種施策の中で、特に「六戸地区集落基盤整備事業」が本格実施され、農業用排水路や農道などの基盤整備を進めます。
 また、一等米比率の向上に取り組むため「カメムシ防除対策事業」を継続実施するほか、「にんにくウイルスフリー種子購入補助金」を新設し、特産地化に支援します。

■ 商業・観光・交流の分野

20周年を迎えるメイプルタウンフェスタ、みのりスタンプ会共催事業、観光協会事業、南部祭囃子大競演会など、関係者の皆様の創意と工夫による各種イベントに支援します。



町長 吉田 豊

「限られた財源を 知恵と工夫で

少子高齢化に対応した、保健・医療

平成24年度予算総額

■ 教育・文化の分野

町の宝である子どもたちのために学校教育環境の充実、優先度の高い分野として取組んできました。

東部上北教育研究協議会が、今まで担っていた部分は、今後町単独で対応するため、新たに教育課内に教育指導室を設置し、指導主事等の職員を配置させ、学力の向上と教育活動の推進を図ります。

学校施設の整備では、七百中学校の講堂の改築を今後、計画的に進めるため、耐力度調査を実施するほか、六戸中学校の防球ネットの新設等、整備充実を図ります。

スポーツ振興についても、例年どおり総合運動公園や総合体育館での各種大会が開催する、施設の有効活用に努めます。

■ 定住促進

町営住宅の整備、「館野団地」に4世帯・1棟、建築します。

また、若者夫婦に対しての家賃補助を行う「若者定住支援事業」を2年間延長するほか、新たな施策として、新築住宅に対する補助制度を設け、マイホーム取得に支援するとともに、県事業と協調し「住宅リフォーム促進補助」さらには「住宅太陽光発電システム設置補助」を新設します。

これらの施策を展開することにより、定住・移住を促進し「住む場所としての質の向上」を図ります。

そのほか住民懇談会で要望がありました小松ヶ丘地域への出張所の開設ですが、四月から「大曲学童保育所」内に別室として事務室を設け、証明書発行業務を行います。

町政運営方針

平成24年度は、第4次総合振興計画に沿って町民と行政が協働し「暮らす場所としての質の向上」をはじめとした定住促進策を推進しつつ、将来にわたる「持続可能な行政運営の確立」を念頭に、経費削減と効率化に努めてまいります。今後ともご理解とご協力を賜われますようお願いいたします。

今後、小松ヶ丘地域を中心とした、北部地域の町民の皆さまの有効利用に帰するよう運営します。



▶六戸町役場小松ヶ丘出張所

平成24年第1回臨時会
平成24年2月16日開催

議案第1号

工事の請負契約の変更について
「六戸町立六戸小学校耐震補強工事」 117万円追加

議案第2号

工事の請負契約の変更について
「六戸町立六戸小学校改修工事」
90万7千円追加

～平成 24 年度予算を探る～

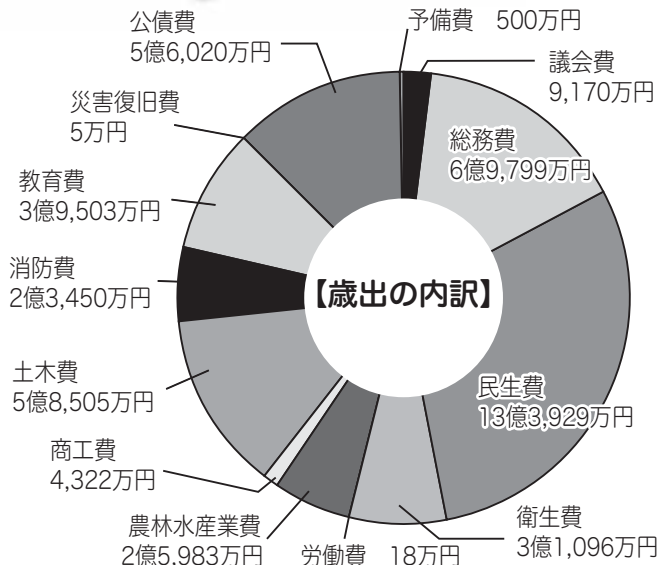
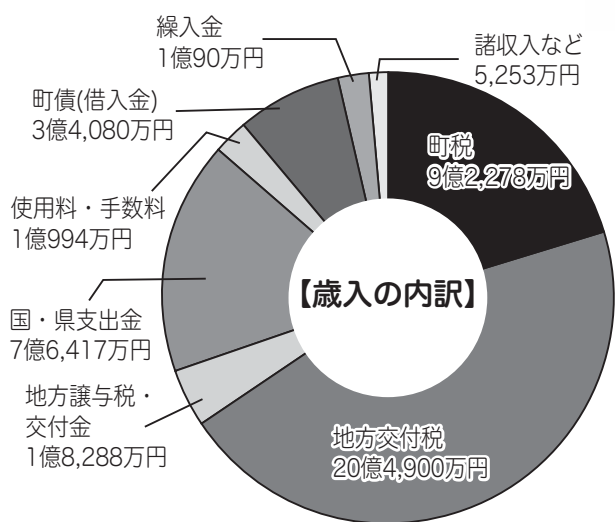


本定例会に提案された平成24年度各会計予算は、本会議において設置された「予算特別委員会」（委員長 川村 重光議員）に付託し、審査することとし、本委員会で審査の結果、各会計予算は委員全員の賛成により了承され、川村委員長が本会議の場で審査結果を報告し、原案のとおり可決されました。

【平成 24 年度 各会計予算額】

会計名	本年度予算額	前年度予算額	前年対比	
一般会計	45億2,300万円	45億8,500万円	-6,200万円	-1.4%
国民健康保険事業特別会計	12億9,800万円	13億5,900万円	-6,100万円	-4.5%
国民健康保険病院事業特別会計	6億3,006万円	6億1,117万円	+1,889万円	+3.0%
下水道事業特別会計	3億 476万円	3億 673万円	-197万円	-0.6%
農業集落排水事業特別会計	1億3,005万円	1億2,410万円	+595万円	+4.8%
介護保険事業特別会計	11億9,511万円	9億9,878万円	+1億9,633万円	+19.7%
後期高齢者医療特別会計	1億 378万円	9,751万円	+627万円	+6.5%
霊園事業特別会計	977万円	951万円	+26万円	+2.8%
合計	81億9,456万円	80億9,181万円	+1億 275万円	+1.3%

一般会計歳入歳出予算総額 45億2,300万円



審

査

概

要

一般会計 歳入

河野 豊委員

町民税法人分が減になっているが、町長の感想は

町長

当町のみならず、社会の影響・公共事業における減額等による影響が大きいと思っています。

事業所がなくなると雇用の場が失われる。町として何らかの援助・支援が必要ではないか

町単独で行うには課題があると思いますので、意見として聞いて、今後、県等に質問の件を伝えていければと思います。

高坂 茂委員

入湯税減の要因は

税務課長

入湯税は、町内1業者のみが課税対象となっています。昨年3月の震災により7割ほど減額し、現在は、3割近くの減額に

なっています。また新幹線の開業等も影響があるようです。

下田 敏美委員

ゴルフ場利用税減の根拠は

税務課長

ゴルフ場利用税は、県から交付金が入っていますが、経済状況等で利用者が減ると想定のもとに算定しています。

町としてもゴルフ場のPRが必要でないか

町長

今後対応できることはなんなのかを考えて、検討していきたい。

一般会計 歳出

円子 徳通委員

民生費の繰出金が非常に増えているが、何らかの対策を行わないとならないと思うが町長の考えは

町長

厳しい状況ですが、限度額を上げると町民に負担がかかりますので、まずは、努力・協力してやっていきたいと思っています。

国保のこのような状況をどう考えるか

全国的に国保会計は破綻状態にあると思っています。国保会計も後期高齢者医療のように県全体の運営を考えていますが、現状のまま維持となっています。国の国保税のあり方を明確にしたいので、財政補てんを

しっかり持っていかなければ、地方自治体、住民の負担は、避けられないと思っています。

下田 敏美委員

国家公務員の給与削減法案が実施されるが、当町においても考慮しての給与なのか

総務課長

平成24年度予算は、削減を考慮していません。

地方公務員には強制しないと

のことですが、町長の考えは

町長

現状を維持してやっていきたいと思っています。

高坂 茂委員

町民バス運行業務・民営バス路線利用委託・バスセンター

トイレ内外清掃管理業務の内容は
2. ほのぼのコミュニケーション21推進事業の事業内容また費用対効果は
3. 保育所運営費の内容は

総務課長

1. 民営バス路線利用委託は、町内を運行している民間バスを利用した場合、町内区間100円で乗車できる制度です。十和田観光電鉄に委託し、年間48万円です。
清掃管理業務は、中央バスセンターと高速バス待合所をシルバー人材センターに委託し、年間30万8千円です。

町民福祉課長

2. ほのぼの事業は、社会福祉協議会に委託し、ほのぼの交流委員は150人を想定しています。事業内容は、一人暮らしの方の安否確認です。
3. 保育所運営費ですが、六戸町の3ヶ所の保育所に277人が入所しています。保育所運営費は、国・県・町より職員の給与等を扶助費として支払っています。

今後の見通しは、少子化がかなり進んでいきますので、人数が減ると思われます。

河野 豊委員

問 狂犬病予防関係ですが、登録はどうなっているか

産業課長

答 文書を出して、予防接種するよう指導し、登録を確認しています。

高坂 茂委員

問 ゴミ不法投棄監視業務の範囲・回数は

建設下水道課長

答 六戸町全域を対象としていますが、22年度より回数は減っています。

苦米地 繁雄委員

問 23年度カメムシ防除対策事業と24年度斑点カメムシ防除事業の内容違いがあるか、また、昨年の効果は。事業のやり方は

産業課長

答 事業内容は、昨年と同様で薬剤散布を助成します。散布率は、22年度は49%、23年度60%となり、1等米比率では、22年度77%、23年度80%となっています。24年度は、2回以上散布した場合は、1回分を満額助成したいと考えています。

問 カメムシは、減反した所や雑

木林で繁殖しているようだが、この予算を一番繁殖する所にも散布することはできないか

答 助成金は、散布した方が申請

しています。新年度は、2回のうち1回を助成するようになりますので、協議会で協議の上、減反部分にも散布するように検討していきたいと思えます。

山本 実委員

問 各団体に補助金を出す目的は

産業課長

答 町のためにご尽力と組合の活性化に対し、補助しています。

杉山 茂夫委員

問 地域防災計画第2号作成業務と防災行政無線拡声子局設置工事の内容は

総務課長

答 地域防災計画業務は、県の防災計画が改訂予定ですので、それに伴い対応の作成です。防災行政無線設置工事ですが、防災無線は町内に設置していますが、一部古里地域（十和田市寄り）の方で聞こえないということで、一基設置予定です。

問 昨年の大震災の経験を踏まえて防災上のことでの検討ではないのか

答 防災計画は、変更しなければ

ならないと思っていました。県の防災計画と連動しなければならぬ部分があり、24年度に行います。

高坂 茂委員

問 1. 後継者対策支援事業の内容と金額根拠は

2. 除雪委託・街路樹委託・公園管理委託の委託業者は

産業課長

答 1. 事業内容はカップリングパーティーです。運営費として商工会のほうからの要望があり補助金を出しています。

建設下水道課長

答 2. 除雪委託は、町内の建設業者に委託し、街路樹等選定作業は、建設業者・シルバー人材センターへ、公園関係においては、造園業者・シルバー人材センターに委託しています。

特別会計

国民健康保険事業特別会計

高坂 茂委員

問 基金繰入金は、無くなったのか、項目はどうなるのか

税務課長

答 事業基金については、今年度末で無くなる想定で考えています。科目設置は、基金の条例があり、当面科目設置は続くものと思えます。

高坂 茂委員

問 納税奨励費の内容は

税務課長

答 町内に納税貯蓄組合が62団体あり、国民健康保険税の納期内納付していただいた3%を奨励費として交付しています。

問 奨励費3%の見直しの時期ではないか

町長

答 納税意識という啓蒙に関して大きな成果を上げています。各組合で使っている道はそれぞれですが、最近では、勉強

したり納税の意識普及を行って
いるところもあり、また、一人
暮らしやお年寄りの方などは、
組合があった方が良いという意
見もありますので、継続してい
ます。

国民健康保険病院事業特別会計

下田 敏美委員

問 24年度の病院の一日平均患者
数を入院23人、外来90人とみて
いるが、個人病院であれば1〜
2人の医師で対応している。4
人の医者であるから目標設定を
高くしてほしいと思う

病院事務長

答 医者4人は、時間差の関係も
あり、昨年度の実績を踏まえて
目標を立てております。

町長

答 採算上たくさん受診してい
ただきたいと思っておりますが、三
交代で勤務という部分を含め無
理をできないような部分もあり
ます。患者さんがたくさん受診
すると、国保や別の医療費が膨
らんでいくというジレンマがあ
ります。
少なくとも経費にかかる部分

を最小限に抑えるような医療が
住民のために行える六戸町立病
院であるように努めたいと思
います。ご指摘の部分を大きな課
題ととらえて病院経営に関して
努めたいと思います。

高坂 茂委員

問 非常用発電機による昨年大震
災での対応は

病院事務長

答 非常用発電機は、震災前の前
年に更新し、震災時に順調稼働
しました。非常用電源ですので、
病院機能すべてを賄えませんが、
照明・軽微な機械に対応し、不
便はありませんでした。

下水道事業特別会計

高坂 茂委員

問 受益者負担金が57・8%の減
額の内容は、

建設下水道課長

答 下水道が整備された区域の土
地に対して受益者負担金として
利用される方をお願いしていま
す。

23年度は、下水道区域の計画
の全体見直しにより整備の工事

はしていません。その関係で新
たな地域の整備区域が出来てい
ないため受益者負担金の発生は
ありません。現在継続のものに
ついては、3年間分割というこ
とで引き続き、新たな受益者負
担金の発生がなく、減額となり
ます。

円子 徳通委員

問 馬淵川流域下水道維持管理負
担金の算定は

建設下水道課長

答 流下水量に基づいて按分して
います。

介護保険事業特別会計

下田 敏美委員

問 高齢者健康づくり推進事業
(湯遊クラブ)ですが、町内全
域から考えると不公平感を感じ
ると思うがどうか

町民福祉課長

答 何らかの手段を検討してい
きます。

高坂 茂委員

問 地域支援事業の一次予防事業
と二次予防事業の違いは

町民福祉課長

答 一次予防は、介護にならないた
めの運動もしくは体操するもの
で、また、二次予防は、ある程
度介護が必要になってくる方、
介護の認定された方の現状維持
する事業です。

※予算審査の内容を要約して

お知らせしています



▶予算審査の様子

▶「湯遊クラブの様子



定例会 3 日目に 4 人の議員により一般質問がありました。その内容を要約してお知らせします。



かわの 野 豊 議員

問 介護保険料削減の 具体的対策は

答 実施場所を増やし開催 町長

問 介護保険料削減に向けた、健康であるための心身健全促進についても一段の踏み込んだ施策が必要と考えるが町長の考えは

答 現在作成中の第5期六戸町高齢者福祉計画及び介護保険事業計画では、在宅介護及び施設等サービスの均衡と介護給付費の適正化対策を図ることを重要施策として掲げています。 これまでも給付費の適正化を図るために、利用者のサービスプランチェックを強化していますが平成23年度から介護予防防

これも質問

- | | |
|------------------------------------|---|
| 問 各種点検委託業務が、業者に任せきりになっていないか | 答 点検後は委託業者から報告を受け、改善が必要なものはその都度対応しています |
| 問 消防設備の自主点検の実施状況は | 答 随時実施しています |

策の一つとして、温泉を活用し生涯健康で暮すための介護予防対策として「湯遊（ゆうゆう）クラブ」を実施しておりますが、参加者が増加傾向にあるため、24年度からは実施場所を増やし、開催することとしています。

問 社会福祉協議会で、いきいきサロンを開催しているが、街角サロン等、身近な小規模集会所を作る考えはないか

答 現在、各地域の公民館や公共施設等を利用し、住民に身近な環境で各種事業を行っており、地域住民にとって、一番集まりやすい集会所と捉えていますので、新規に集会所を設置することは考えていません。

問 新築住宅支援による 新住民のコミュニケーションは

答 町内会加入により 町長

問 新築住宅支援により、新しい町民の増加が期待されるが、町としてのどのようなコミュニケーションを考えているか

答 平成24年度から「定住対策新築住宅建設補助制度」を創設しますが、条件として町内会に加入することになっています。よって、地域づくりに賛助され、コミュニケーションが図れると思っています。新住民の方には、いろいろな経験を積んだ方や専門知識をもった方もいらっしゃると思いますので、一日も早く地域に溶け込み、地域活動のほか、町文化・スポーツ事業に積極的に参加し、六戸町に住んで良かったと思えるように交流を図っていただきたいと思っています。

問 役場職員による町内会担当者を決め、問題等を含めきめ細やかな対応はできないか

答 現段階では、役場職員を派遣しなければ課題・問題等に対応できないような町内会はないと認識しています。

職員は、町内会の一員として「自助」「公助」「自立」の役割に務め、協働のまちづくりを目指していただきたいと思います。今後も町内会活動に対し「ふれあいの郷づくり」事業など支援いたします。



しげる 茂 議員
さか 坂
こう 高

問

六戸町の将来ビジョンは

答

行財政のさらなる健全性を高める

町長

問 吉田町長5期目にあたり、今後4年間の町政かじ取りはどのように考えているか。また、六戸町のあるべき姿を考えた場合、10年いや50年・100年先を見据えた将来構想は

答 町政の方向の基本は「第四次総合振興計画」です。当町は「将来に備える」という根本的な考えのもと、行財政運営の効率化を進めてきましたが、現下の国や県に依存することが容認できない財政状況の中で、町としてさらに、きめ細やかな運営に心がけ、行財政の健全性を今まで以上に高めなければならぬと考えています。

問 当町の産業等において、日本一あるいは青森県一を標榜できるようなものがないか。このことは、我が町はどのような発展を考え、また、内外にPRすることによるメリット等考えられるが、町長の見解は

答 それぞれの産業において、携わる方々の鋭意努力により現在に至っている認識しています。「黒毛和種繁殖牛の導入」をはじめ「シヤモロック」「にんにく大玉」など知名度アップとブランド化を目指し、関係団体を通じて販路の拡大に努めています。今のところ「日本一」となる事業には至っていない状況です。また、産業以外の分野において、地域に根ざした事業を堅実に、一歩先を見据え、歩んでいると思えます。今後とも町民の意欲が増すよう、町として、情報の提供をしながら、六戸らしさを追求し、明るく積極的なまちづくりのため努力していきます。

問

少子化対策として婚活イベント等に対する町長の考えは

答

これまで5組のカップルが誕生

町長

問 日本は、2050年には人口8千万人に減少するとの予測がされています。少子化・人口減対策として、婚活イベント等をサポートすることによって、結果としてカップルが誕生し、子供が生まれることにつながり、豊かなまちづくりのサポートが叶うと考えるが、町長の見解は

問 人口減は、当町にとつても避けて通れない重要課題です。町外から当町へ移住促進するためには、魅力ある町であることを一層内外に発信する必要がありますと考えるが、その施策は

答 婚活イベントは、「カップリングパーティー」として当町商工会青年部が提唱し、実施主体となつて平成18年度から開催しています。商工会青年部が自主的に企画・運営して、後継者対策と町の持続ある発展に寄与する目的をもって汗を流してきたものであり、平成20年度から青年部の支援要請に答えるため、補助金を交付しています。これまで5組が結婚しており、少子化対策としても効果を期待しています。

答 町民アンケートにおいて、町の魅力を尋ねたなかで、「自然環境が豊かである」「八戸・三沢・十和田3市の中心に位置し交通立地条件に恵まれてる」として「親切でやさしい町民気質」などがあげられています。当町の特性・魅力を将来に生かし、さらに魅力を高める視点に立って、定住促進策を進めているところです。

このような施策を内外に発信し、町の魅力を伝えるため町のホームページ、町広報誌掲載や新聞等メディアに対しても積極的に情報を提供していきたいと考えています。



きゅう でん しん いち
久 田 伸 一
議 員

問

「新規就農支援事業」への町の取り組みは

答

農業の活性化に
寄与できるよう支援 町長

問 平成24年度より就農意欲の喚起と就農後の定着を図るため、総合的に支援し、持続可能な力強い農業の実現を目指すということで、「新規就農総合支援事業」が始まります。この事業を進めるには、地域農業マスタープランの作成が不可欠です。

答 国の事業ですが、情報を的確には把握し、すでに転作の説明会・営農講座等で周知を図り、事業を推進しているところです。また、町認定農業者協議会等の団体へ周知し、意欲ある農家を中心に事業を活用できるよう、農業委員会とも協力しながら取り組んでいきたいと考えています。

今後とも、助成支援の実施等、さらなる協力体制の拡充を図り基幹産業である農業の活性化に少しでも寄与できるよう支援していきますので、ご協力お願いします。

〈新規就農総合支援事業の内容〉

- 新規就農者への支援
「人と農地の問題」の解決に向けて、農業を始めたい方や新たに人を雇いたいと考えている人を支援するもの
- 農地集積への支援
「人と農地の問題」の解決に向けて、農地の集積を進めようとする人を支援するもの



議会を傍聴してみませんか

次回定例会は6月



町議会は、町の予算や、身近な問題について話し合う大切な会議の場です。

「町政を知る良い機会!!」

議会は、年4回の定例会（3、6、9、12月）、臨時会（随時）を開催します。

次回定例会は、6月上旬を予定しています。

本会議の傍聴を希望される方は役場4階の傍聴受付簿に、住所、氏名を記入しご入場ください。また、本会議の状況は、役場1階ロビーのテレビでも中継放送しておりますのでそちらもどうぞご覧ください。

▽決算と予算特別委員会が傍聴できます。

・決算9月 【前年度決算審査】

・予算3月 【新年度予算審査】

詳しい日程等は、議会事務局までお問い合わせください。
町ホームページでもお知らせします。

☎ 0176-55-4547 (直通)



やまもと 実 議 員
山 本

問 定住自立圏構想をどう考えるか

答 各市町村にメリットがある 町長

答 当町を含む上十三地域広域市町村圏域は、2市5町1村で構成され、これまでも協議会において広域連携をしてきました。

昨年2月市町村会議で定住自立圏構想推進について話し合いがなされました。上十三広域圏という同一の圏域に属し、広域連携を行ってきた経緯から、十和田市・三沢市の両市が共同で中心市となり、複眼型の圏域形成を進めることとなりました。

問 町民の暮らしを守り、持続可能な町にしていくには、周辺自治体が一对一の協定を結び、生活機能やネットワークなど圏域全体で必要な機能を各自自治体が役割分担し確保していかなければならないと考える。国が推進している定住自立圏構想をどう考えているか

今後は、具体的連携を協議していくこととなりますが、各市町村にとってメリットがあり、既存事業を含め早期に実施可能な取り組みから連携・協力していくことを基本スタンスとして進めていきます。



◎定住自立圏構想とは、人口減少、少子高齢化の進む中で、近隣市町村が連携して行政サービス機能を維持し、住民が安心して暮らせる地域を作ることが目的です。

◎上十三地域広域市町村圏域は、十和田、三沢の2市、野辺地、七戸、六戸、横浜、東北の5町と六ヶ所村です。

これも質問

問

六戸町の発展と、町民の幸せの為に実施される新年度の重点事業は何か

答

第4次総合振興計画に沿いつつ「持続可能な行財政運営」を念頭に、優先順位を考慮しながら予算編成しました。

(事業内容は、2・3ページ参考)

問

介護予防事業に対する町の対応は

答

予防事業に積極的に参加

町長

問 一期末の平成12〜14年の介護保険料基準月額額は、3,693円であったが、3年に一度の見直しにより、第五期24年度からは、5,880円と試算されており、当初と比して59・2%上昇しています。

今後、介護予防事業に積極的に取り組み保険料を抑えていかなければなりません。そこで、町ではどのような介護予防事業に積極的に取り組むのか

答 町の介護予防事業として、「いきいきサロン」「湯遊クラブ」等を行っています。町民一人一人が予防事業に積極的に参加し、要介護にならないという意識を持つことが必要でないかと思えます。

問 介護予防事業でどのような効果があったのか

答 効果は、閉じこもり、物忘れ予防事業などにより介護状況を維持することには効果がでていくと思えます。



こんな
まちづくりに
期待します

町議会一般質問傍聴の雑感

杉山 認明さん (小松ヶ丘)

私達が選んで町議会に送り出した町議会議員による、行政に対する一般質問は定例による年4回行われている。町行政の将来を見据えた展望、町民にとって身近な行政施策等々、これらに対して町民の行政に対する展望など、町民の代弁者として大所高所より行政に物申す機会を与えられた一般質問は、議員活動にとって極めて重要な役割と認識している。

私もできる範囲でこの機会を見逃すことの無いよう傍聴をさせて頂いているが、行政の現状そしてその仕組み、将来に向けての展望等、質問・回答のやり取りの中で多くの知識を得る良い機会として捉えている。

ただ傍聴の都度物足りなさを感じるのは、町当局側の回答の多くは町長からで、実際に日常業務に携わっている担当課長クラスからの答弁の機会が殆どないことである。例えば再質問の矛先を担当課長に向けることも一策かと思う。

議員活動に不可欠なことは、行政全体の仕組み実情を理解することである。その為にも、行政窓口に足を運び、町民の生の声をお聞かせしながら、行政職との問答の機会を多く持つことではないでしょうか。いわば一般質問のネタ探しの一助にもなるのでは。

議会広報委員会では、町民の皆様のまちづくりに対するご意見、ご要望の投稿を募集しています。どしどしお寄せください。お待ちしております。

「十鉄電車」長い間
有難うございました
議会広報委員 附田 輝雄

沿線の住民の生活路線として親しまれ、駅周辺の発展に大きく寄与した「十鉄電車」に対して、中間駅の七百駅で終了式典（十鉄主催）が地域住民、鉄道ファン、報道関係者らが大勢詰め掛け執り行われました。七百老人クラブ康楽会のメンバーらが「ありがとうさようなら」と書いた横断幕を式典会場、駅ホームに掲げ最後の別れを惜しましました。

去る、3月31日で十和田観光電鉄線（十和田市―三沢市、14・7キロ）が89年の歴史に幕を閉じました。沿線の住民の生活路線として親しまれ、駅周辺の発展に大きく寄与した「十鉄電車」に対して、中間駅の七百駅で終了式典（十鉄主催）が地域住民、鉄道ファン、報道関係者らが大勢詰め掛け執り行われました。

人事案件

■六戸町副町長 保土澤 正教氏を任命することに同意しました。

ほ ど さ わ ま さ の り
保土澤 正教
(昭和23年生)

六戸町大字鶴喰

字鶴喰32番地1



〈経 歴〉

昭和46年3月 弘前大学農学部 農業工学科卒業

昭和46年4月 青森県職員として採用

平成21年3月 青森県職員を退職

副町長から一言

このたび、議会の同意をいただき、4月1日より副町長に就任させていただきました。

その責任の重さに身の引き締まる思いではありますが、吉田町長の補佐役として、第4次六戸町総合振興計画を推進し、住みよい六戸町のまちづくりを実現するため、議会や関係団体の皆様とより一層の連携を図り、微力ではありますが、誠心誠意努力してまいります。

今後とも町民の皆様のご指導ご協力をお願い申し上げます。就任にあたってのご挨拶といたします。

■六戸町監査委員任期満了に伴い、米内山 功氏を再任することに同意しました。



よ ない や ま い さ お
米内山 功
(昭和22年生)

六戸町大字犬落瀬

字権現沢14番地174

監査委員から一言

この度、再任となりました。長年税務の仕事をしてきたため、税金の使われ方に人一倍関心があります。今までも同様、税金のムダ使い防止に努めて参りたいと思っておりますので、町民の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

？ 監査委員とは、公正で効率的な行政を確保するために地方自治法の規定により設置される機関で、任期は4年です。

後 編
記 集



降雪、低温と厳しかった冬が終わり待ちに待った春。町民の皆様にはお忙しい毎日をお過ごししていると思います。農作業も遅れ気味と聞いていますが、今年はずべての作物が豊作であるよう祈念いたします。

去る、3月31日で十和田観光電鉄線（十和田市―三沢市、14・7キロ）が89年の歴史に幕を閉じました。